

体育授業における生徒の学習意欲向上を目指して

ー 学習カードの活用を通して ー

学籍番号 199321
氏名 治部 和哉
主指導教員 石川 美久

1. 背景・目的

1.1 現状と課題

現代の若者の課題としては、日本の子供達の自己肯定感の低下がいわれている。「私は自身に満足している」という項目に日本は45.8%だったのに対し、アメリカは86.0%、その他の国でも70%以上の回答を示した。日本の若者は他国と比較して自己肯定感が低いといえる。そのほかにも運動能力の低下や二極化が課題となっている。これらの課題は保健体育科の目標である「生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力」を育成するにあたって、スポーツに触れる機会を自ら減らしてしまうなど障壁になると考える。

これらのことから保健体育の授業においては、学習意欲の向上による自己肯定感等の育成が必要であると考えられる。

1.2 先行研究の検討

(1) 学習意欲の捉え方

大場(2010)は、学習意欲を積極的、自発的に学習しようとする意志のことであると述べている。さらに大場は、学習意欲を運動有能感、教師、緊張性不安、困難の克服、目標設定、友人、自尊感情、授業の楽しさ、能力向上期待、規範的態度10の因子にわけ、学習意欲のプロセスモデルを報告している。本研究でも学習意欲を積極的、自発的に学習しようとする意志と捉え、学習意欲向上のための授業づくりにおいて10因子を参考にした。

(2) 学習カードの効果と課題

日景ら(2004)によると体育科の授業において約9割の教師が学習カードを作成していると報告している。田中(2003)は学習カードのメリットとして、学習を振り返る機会や仲間と関わる機会が増えると述べている。工藤(2015)は、学習カードが子ども同士で自ら課題を発見し合い、解決に向かうという主体的な学習を促す要因になっているのではないかと述べている。

学習カードを活用する際のデメリットとして田中(2003)は、膨大な記録内容を生かしきれないという傾向が浮かび上がり、多くの教師から、コメントの記入等が負担に感じているとも述べている。さらに、学習カードの記入等に時間がかかり、運動量が確保できていないことについても言及している。藤田(2009)は、学習カードが現場で高い割合で用いられているにもかかわらず、学習カードへの児童の記述内容を生かしきれないという課題がある。学習カードを用いる際はこれらの点を考慮することが必要である。本教育実践研究は、保健体育科授業において、学習カードの活用が生徒の学習意欲に与える影響を検証した。

2. 方法

対象はA高等学校の1年生、男子13名、女子13名計26名のクラスと男子13名女子12名計25名のクラスの2クラスとした。種目は器械運動(マット運動)で全9回の授業実践を行った。2クラスを学習カードを用いるクラス(以下、有りクラス)、学習カードを用いないクラス(以下、無しクラス)に分け、学習カードの有無による生徒の学習意欲の変化を分析した。

3. 結果

学習意欲全体の変化に関しては、授業後の有りクラスと無しクラスの比較では差は認められなかった。授業前後の学習意欲の比較では、有りクラスのみ学習意欲が高いことが明らかとなった。因子ごとでは、有りクラスでは教師因子、積極的取り組み因子、目標設定因子、授業の楽しさ因子の4点で有意な差がみられた。無しクラスでは、どの因子も有意な差は見られなかった。

4. 考察

4.1 学習カードの効果

(1)教師因子

学習カードにより生徒が自身の課題について明確に把握することができ、教師に質問しやすくなることや、思考カードで生徒が授業に対してどのように感じているのかを把握することで教師から生徒に関わる機会が増加することが推測できた。

(2)積極的取り組み因子・目標設定因子

生徒は学習カードを見ながら仲間同士で話し合い、試行錯誤している場面が多くみられた。このことから情報・思考カードが生徒の課題を明確し、生徒自身の活動を積極的にさせたのではないかと推測する。

(3)授業の楽しさ因子

授業の楽しさにはその時の仲間との人間関係や教師との関わり、種目の得意不得意などが要因として考えられる。学習カードを用いることにより、生徒が授業の満足度を目で見て確認し、それを教師も把握することができる。このことが学習カードを用いていないクラスとの差として授業の楽しさが出てきたのではないかと考えられる。

4.2 今後の課題

今回用いた学習カードがどの学校でも効果を発揮するわけではない。研究をさせていただいた実習校では学習意欲向上の傾向が見えたが、同じ学習カードを用いて逆の効果が出る学校もあるだろう。学習カードを用いる際は、学校の実情をしっかりと把握した上で、生徒に合った学習カードを作成することも重要なことの一つである。

また、全国の高等学校1493校の48%がタブレット端末を導入している(旺文社,2020)など、ICT教材の普及が進められてきている。今後、体育授業で使われている教材教具の実態を把握し、学習カードや他の教材の活用をさらに検討していきたい。